

# CASA新聞

発行 株式会社カーザミカワ  
岡崎本社 ☎0564-24-2511  
岡崎市吹矢町88番地  
豊田営業所 ☎0565-28-3891  
豊田市豊栄町6丁目1番地

## 名古屋商況

梅雨で市況は一服状態。住宅資材には買い急ぎは見られず、相場も全体的に落ち着いている。ただ、プレカット工場からは「6月は加工量が増えたため木材製品の荷動きは順調だった」（中京地区の大型工場）との声が聞かれる。これに対し、関東など他地区では荷動きが鈍く、この影響でRウッド集成平角や米松小角などが値下がりしたと見られる。また、7月のプレカット加工量は横ばい、ないし若干減少ペースとなる模様で、主要な木材製品はさらに弱含むと見られる。消費増税の仮需も見込めず、供給側には厳しい環境が続く。

国産材は、季節的に良材丸太が少なく、製品も手当てが鈍く、価格は今月も保合推移だ。Wウッド・Rウッド集成平角は引き合いがまとまらずジリ安展開で、前月比2000円安。米材製品では米松KD小角・小割材やSPF2×4デイメンションランバーが値下がり。後者は在庫調整の進展で底入れと見られていたが、実勢は不安定なまま。輸入合板は実需が少なく、港頭在庫はさらに積み増しとなり、荷もたれから相場は弱い。針葉樹合板は先般表明したメーカーの値上げが浸透していないが、納期は長くなく、先高気配が強い。

## 19年下半年期、資材需給は前年比減見通し

### 林野庁 第1回木材需給会議

林野庁は6月25日に2019年度第1回木材需給会議を開いた。民間シンクタンク等13機関の19年度の住宅着工の見通しは平均91万2000戸で、18年度比4万戸減の予測が示された。3月の同会議で示された平均92万戸の見通しから、さらに減少した。資材側も19年7〜12月の需要は前年同期比減の見通しが主流で、輸入製材品、輸入合板、輸入丸太、構造用集成材の供給量も概ね前年同期比減の

予測となっている。一方、国産材丸太と国産合板の供給は前年比増の見通しで、品目によっては需給の緩みが懸念される。消費税引き上げの影響に関する民間シンクタンク等では、住宅着工の駆け込み需要及び反動減のどちらも、前回より影響は小さいとの見方が主流とされた。実際の受注動向として、住友林業の戸建て住宅の受注は4月以降高額物件の受注棟数が減少し、1次取得層でも特段の動きは

なく、次世代住宅ポイント等への期待が示された。国産材丸太は、製材用は19年7〜9月の供給が前年同期比5・8%増の見通しだが、昨年国産材への需要が増した2×4部材等への要望は減少している。合板用は、新工場稼働したため7〜9月の供給は11・5%増、同10〜12月は同4%増の見通しだが、国産合板に対する需要は同7〜9月がピークで、同10〜12月は前年同期比減の見通し。米材は、19年7〜12

月は丸太、製材品とも昨年とは異なる比較的年値で推移するが、東亜林業が米松製材から撤退した影響や景気の不透明感から、需要供給とも前年同様の低水準、もしくは前年同様の見通しが示された。米材製品の入荷量は189万6000立方メートル（前年比8・2%減）と200万立方メートルを割り込む予想となった。

輸入及び国産の構造用集成材と欧州材は、米材同様に前年並みもしくは前年同期比減の見通しが示された。

## 今年度グリーン化事業が採用されました

～今年度から一部ルールが変更されます～

地域型住宅グリーン化事業の狙いは、各地の木造住宅生産に携わる川上から川下までの事業者がグループを作り、協力・サポート体制を構築することにある。その結果、地域における木造住宅の生産体制を強化し、ZEHや長期優良住宅など質の高い住宅供給戸数の確保を促進させようとする2つの大きな柱がある。

これまでは、補助金獲得の手段として同事業が活用されているという指摘もあり、本来の目的に即した体制整備が求められ

た。例えば1つの工務店が複数のグループから要望を出すことで、実際の建築棟数以上の補助金枠が得られる事例も少なくなかった。そのため18年度も、配分されたにも関わらずグループ内で活用されない補助金が多量に発生した。施主の都合で1〜2戸分の執行残が生じるのは仕方ないにしても、不要な残の積み重ねは全国8000グループの総計では莫大な額になる。これはほかの工務店の活用機会を奪うことにも繋がる。そこで今回から

は補助事業を最大限活用するため、10月末時点（第1期）で申請登録されていないグループの配分額をリセッティングする。そして使われなかった配分額を原資として、11月から全国一律の先着順方式として第2期を開始する。施主と合意に至り、交付申請の準備が整った工務店から登録し、補助金が活用できるようにする。

複数グループにまたがる動きは事務局にも言える。1つの事務局が多くのグループを抱えたり、広範囲にわたる工務店を担

当するなどのケースでは、十分なサポートが難しくなる。そのため今回は、より顔の見えるグループ活動をしていく仕組みとした。未経験工務店が一定以上補助金を活用した場合、第2期からはグループ内のすべての工務店の活用上限個数を緩和する。さらに未経験工務店が活用できる一定の枠を、配分額として残すものだ。

戸あたりの上限額は、長寿命型・ZEH以外が経験工務店100万円、未経験工務店10万円。ZEHの経験工務店は125万円、未経験工務店は140万円。地域材加算で20万円、三世代同居加算で30万円となる。

## 国産材商況

国産材丸太は引き続き出材が順調で、大径材を中心に荷余り感が目立っている。一方、丸太が傷みややすい時期に入ってきたこともあり、製材場の丸太手当は慎重になっている。丸太の弱基調と需要の停滞感が重なり、製品の仕入れも様子見で荷動きは上向いてこない。ただ、6月はプレカット受注が前年比増など、需要上昇への期待感も聞かされた。例年

通り梅雨で出材が減少すれば、需給とも相場の地合いも引き締まってくるものとみられる。

各地の原木市場や共販所では出品量が多くなっており、仕分けが追いつかない。一回の市にかかる量が前年の1・5〜2倍など、供給過多の声が各地で上がっている。山側からは出材を減らしたい意向も聞かれるが、民有林からの間伐出材は、補助

表示説明	値下げ 	横ばい 	値上げ 
市況状況	ファルカタ薄ベニヤ	.....	
	ファルカタ正寸12mm T2	.....	
	針葉樹12mm	3×6.....	

事業の期限との兼ね合いもあり、需要とのバランスが取りにくい。昨年の高値相場を背景に高まった出材意欲を、タイムリーに引き締めることも難しいようだ。